

デジタル計算機の元祖

ーいま見直されている「そろばん教育」ー

■そろばんの起源

紀元前2000-3000年、メソポタミアにおいて砂上に小石を置いて計算する「砂そろばん」が起源である。現物が存在する最古のそろばんは、サラミス島で発見された紀元前300年頃の「線そろばん」で、盤上に引かれた線の上に珠玉を置いて計算した。写真1は筆算(左)と線そろばん(右)で計算を競っている様子である。現代の箱型タイプのそろばんは15世紀頃に中国から日本に伝来した。

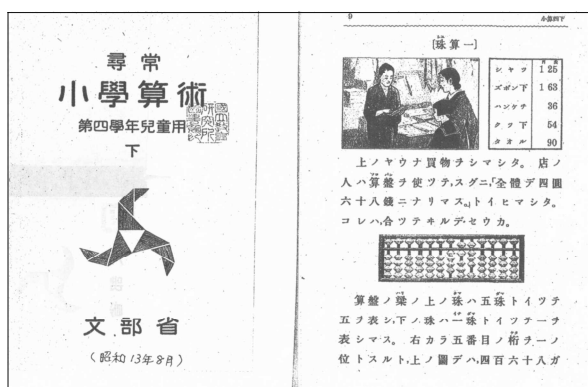
「そろばん」なる名称は中国語の算盤の読み「スワンパン」が変化して「ソロバン」になったとの説がある。

■そろばん教育

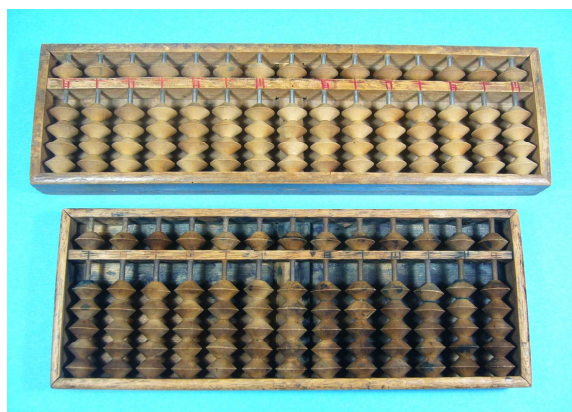
江戸時代になると物品の商取引が盛んになり、お金のやり取りでそろばんが必須の道具となった(写真2)。

子どもは、「読み書きそろばん」を寺子屋や私塾で学んだ。明治に入るとそろばんを学校教育とすべきとの考えが広まり、一部の学校で教育が始まり、1938(昭和13)年には小学4年生向けの算数国定教科書でそろばん教育が導入された(写真3)。

教育用そろばんは四つ玉が指定され、それ以降、従来の五つ玉から四つ玉が標準となった。現在でも、小学3、4年の算数授業でそろばんを教えるよう、学習指導要領に定められている。電卓の登場で事務所からはそろば

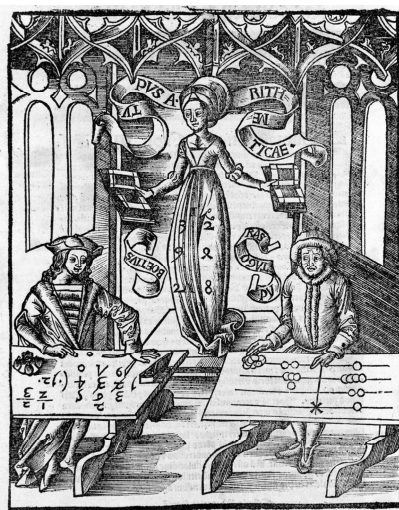


〔写真3〕 小學校教科書のそろばん演習ページ
出典：『文部省国定教科書』1938



〔写真4〕 商用4つ玉そろばん(上)と五つ玉そろばん(下)
(筆者蔵、現物展示品)

実物展示中



〔写真1〕 筆算と線そろばんの競争
出典：『Margarita Philosophica』(1503年)



〔写真2〕 そろばんでコメ取引
出典：鈴木久男『そろばんの歴史』

■検定試験・そろばん教室

そろばんでの計算能力を認定する検定試験は1928(昭和3)年に東京市で始まり、1944(昭和19)年からは全国統一試験に拡大した。

戦後、企業の事務職の求人条件にそろばん3級以上が求められるとそろばんブームが到来してそろばん教室、検定試験が盛んになった。現在でも年6回の検定試験とそろばんコンクールが実施されている。また、(表1)に示すように、多数のそろばん教室が活動中である。

さらに、そろばんの効用は海外でも認められて、100か国以上の国でそろばん教室が開かれている。

愛知県	298教室
(内名古屋市)	(64)
東京都	185
神奈川県	215
大阪府	302

〔表1〕 活動中のそろばん教室
出典：HP 日本珠算連盟(2024年)

(渡辺治男)